

(一財)長崎県剣道連盟

広報誌 第 2 号

剣道だより (KENDO Nagasaki)



理事長挨拶・・・「平成 30 年度本県剣道連盟基本方針」について

「剣道だより」発刊によせて (一財) 長崎県剣道連盟 副会長兼理事長 小野田稔

長崎県剣道連盟の広報誌として平成 14 年 11 月に創刊号が発刊され、平成 25 年 5 月の第 64 号で廃刊となりました「剣報長崎」。およそ 11 年間、本県剣道界に多大な貢献をして頂き、廃刊は非常に残念に思っておりました。その後、現在までの 5 年間は高木志伸、谷口秀澄両氏の献身的な活動により、ホームページによって、情報提供をさせていただきましたことは、本県剣道愛好者のみならず「大変役に立っている」、「各種大会の結果」や「道場の活動状況」等の情報提供は本当に助かります。等々多くの方から嬉しいお言葉をいただきました。今回、広報誌として「剣道だより」が発刊されることになり、大変嬉しく思っております。愛読者の皆様のご協力により、次号の発刊を楽しみにするような充実した紙面を期待したいと思います。



ところで、「平成 30 年度の本県剣道連盟の基本方針」について、紙面の都合上その一部を紹介いたします。

- 「剣道の理念」に基づき、高い水準の剣道人の育成に心がけ、各層への剣道の普及を図る。とともに、生涯剣道を目指し活力ある剣道界の実現を図る。
- 各種事業の適正な運営に努め、財政の健全化を図る
- 審査の適正化、審判技術の向上を進め、講習の充実、徹底により質的向上を図る。
- 専門委員会の更なる充実強化を図る。
- 中学校武道必修化に伴う剣道授業の実態を把握し、その充実・発展の為に授業協力者の養成等と所要の支援を行う。等以上のとおりですので、どうかご支援ご協力の程をお願いいたします。

< 魁星旗争奪第 47 回全国高校勝抜剣道大会 島原高校 男子団体 優勝(日本一) >

平成 30 年 3 月 29 日～31 日、秋田県立武道館で魁星旗争奪第 47 回全国高校勝抜剣道大会・第 34 回全国高校女子剣道大会が開催され、男子団体が島原高校 2 年連続 3 回目の日本一となりました。32 都道府県から男女計 376 チームが参加。高校剣士の頂点を懸け、しのぎを削りました。剣道の魁星旗争奪全国高校勝抜大会決勝は 3 月 31 日、秋田市の県立武道館で行われ、男子団体が島原高校(長崎)が育英高校(兵庫)を退けて 2 年連続 3 度目の頂点に立ちました。

監督: 福田俊太郎 先鋒: 松崎弘士郎 次鋒: 林田匡平 中堅: 前田聖直 副将: 若杉一真 大将 黒川雄大

< 第 27 回全国高等学校剣道選抜大会 島原高校 男子団体 準優勝 >

平成 30 年 3 月 26 日～28 日、第 27 回全国高等学校剣道選抜大会が愛知県・春日井市総合体育館で開催されました。男女とも全国から 64 チームが集結し、5 人制団体戦で試合がおこなわれました。そして、今大会も前回から導入されているトーナメントで春の高校王者を目指しました。男子団体で見事準優勝を果たし、女子団体では島原高校がベスト 8、長崎日大高校がベスト 16 でした。

監督: 福田俊太郎 先鋒: 松崎 次鋒: 前田 中堅: 若杉 副将: 内藤 大将 黒川



魁星旗争奪全国高校剣道大会優勝
全国選抜剣道大会準優勝
島原高校 男子団体



魁星旗剣道大会
開会式選手宣誓
黒川雄大 (島原)



全国選抜剣道大会 決勝戦
九州学院 (1 代表 1) 島原
代表戦 重黒木 (九学) 対 黒川 (島原)

報告・・・第 40 回長崎県下女子剣道大会

平成 30 年 3 月 18 日(日)、諫早市中央体育館(内村記念体育館)において第 40 回長崎県下女子剣道大会が開催されました。女性だけの剣道大会ですが、県内各地から小学生団体(3 人制)68 チーム 203 名、個人は中学生 167 名、高校生 109 名、家庭女子 11 名、総勢 490 名の女流剣士が参加しました。



高校生の部
優勝 諸岡花凜(日大) 2位沖洲文香(大村)
3位 諸岡花音(日大) 山口奈々子(日大)

小学生団体の部 優勝真崎少年(諫早)
2位 橘道場(長崎)
3位紐差剣心会(平戸) 布武会(南島原)

開会式での選手宣誓小学生
吉田沙綺選手(紐差剣心会)



中学生 個人の部
優勝永井萌(長田) 2位 山脇愛海(時津北)
3位小畑なつ(平戸) 長谷川知(海星)

家庭女子の部
優勝北浦明香(大村) 2位小崎さくら(大村)
3位 作元葉月(西彼) 大島かつき(諫早)

白熱の試合様子
小学生団体戦

道場を訪ねて(1)・・・微神堂(大村市)

先日、大村へ出張で出かけた時にふと、大村市内の本通りから少し路地裏に入るとひっそりと建つ由緒ある道場を見つけた。「微神堂」と書かれた看板が掲げられていた。江戸時代から続く神道無念流の剣道場「微神堂」はいまから 164 年前の嘉永 7 年(1852 年)5 月 16 日、「練兵館の鬼歎(おにかん)」とよばれた、神道無念流の斎藤歎之助が大村落 12 代藩主・大村純熙に招かれ、藩の剣道師範として迎えられました。微神堂は斎藤歎之助の私設道場として建てられ、明治、大正、昭和、平成の長きにわたり、剣道を志す者の修練の場として、歴史を刻んできました。道場の場所も何度か変わり、建物も建て替えられましたが、創建の精神は道場の正面に掲げてある「微神堂」の扁額とともに今日に至るまで受け継がれています。この扁額は江戸時代後期の三筆の一人である市川米庵が書いたもので、大変貴重なものとなっています。微神堂というのは、「孫子」の虚実篇の一節にある「微なるかな、微なるかな、無形に至る」と、「神なるかな、神なるかな、無声に至る」の、「微」と「神」をとって名づけられたそうです。現在の微神堂は、辻田児童遊園地に隣接する大村市杭出津(くいでづ)にあります。創建当時のままの床板は先人たちが流した汗と油で黒光りし、柱は角がとれて丸みを帯び、歴史の重みを感じさせます。



現在の「微神堂」の全貌

扁額「微神堂」は市川米庵の書

道場の入口にも「微神堂」の看板がある